

●出力:200W+200W(8Ω) ●寸法/重量:W430×H120×D370mm/25kg ●備考:バランス入力HOT=2番ピン ●問合せ先: 朝エレクトリック03(3530)6276

ヘーゲル

H20

¥700,000

暖かく肌合いのいい再現。心地よく楽しませる。ヘーゲルの最新ステレオパワーアンプ。限定モデルH10のテクノロジーを踏襲

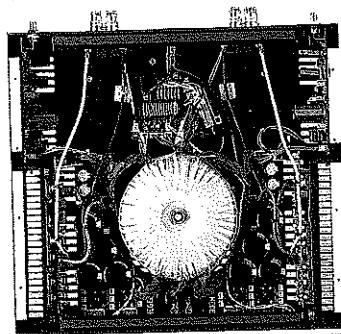
柳沢功力



ノルウェーのヘーゲルからパワーアンプの最新作H20が登場である。07年に久々に日本再上陸を果たした同社は、その時点でプリメインアンプやプリアンプのほか、パワーアンプもH2A(50万円)と上級H4A(90万円)の2モデルを擁していた。

今回のH20は、価格的にはその中間を埋める70万円。出力も2機種の間で8Ω時200W+200W。スタイルやサイズはH2Aと同じだし、大型トroidalトランスを中央に据えた、増幅回路のデュアルモノ構成もその2機種と共通。となれば誰しも、価格差の開いた従来機2モデルの、中間を埋めるのが役割と考えるはず。しかしそれなら、なぜモデル名がH3AではなくH20なのかの小さな疑問が生まれる。

乏しい資料なので詳しくは不明だが、そこから想像を巡らすに、同社は08年



1000VAの電力容量を持つトroidalコアトランスを中央に、増幅回路を左右対称に配置。

に、従来機をさらに進めた縦型FET採用のパワーアンプ、H10というのを発表したらしい。ただし同機は、その時点ではパーツ確保の問題や精緻なハンドリングを要するなどから、わずか30台の限定モデルに終わったこと。これも想像だが、ゆえに日本の分はほとんど無かったのかもしれない。

それはともかく、本機はそのH10のテクノロジーを受け継ぎ(H10の設計規模や具体的内容は不明だが)、本格的な量産機として再挑戦したものらしい。この結果、本機の入力段は縦型FETによる構成で、この新開発回路によるリズムミックスでナチュラルな再生が特徴とある。

従来機のサウンドも癖のないナチュラルな聴き易さが魅力だが、確かに本機も、それ以上と断言はできないが、暖かく肌合いのいいナチュラルな再生が好感を抱かせるもの。それにリズムミックスなサウンドの魅力も間違いではなく、軽やかで足どりのいい表現。逆に濃厚さや腰の座った重量感はやや乏しいが、心地よく楽しませるアンプだ。